

性差に基づく科学技術イノベーションの検討小分科会
(第25期・第6回) 議事要旨

1 日時：令和3年9月17日(金) 13:00～15:00

2 場所：オンライン

3 出席者：渡辺 美代子、名越 澄子、河野 銀子、高瀬 堅吉、野尻美保子、
伊藤 公雄、安田 仁奈、能瀬さやか(以上、名簿順)
(事務局) 大山 研次、森田 健嗣

4 議事要旨

(1) 前回議論の確認

第5回分科会の議事(資料2)について確認した。

(2) 「新学術領域研究「性スペクトラム」」に関する話題提供

大阪大学大学院生命機能研究科立花誠教授より、資料1に基づく話題提供があり、その後、質疑応答を行った。主な応答やコメントは以下の通りである。

- ・性スペクトラムの存在は、アブノーマルなのか、もしくは生物が戦略的に連続体になっているのか。
 - アブノーマルではなくて、戦略のひとつだと考えられる。
- ・遺伝要因、内分泌系要因、環境要因の3つで捉えるのはわかりやすい。
- ・ジェンダー研究では、グラデーションという捉え方をしてきたが、スペクトラムとの違いは何か。
 - ほぼ似ているが、スペクトラムの方がファクターが多いのではないか。
- ・DSD当事者らが“Disorder”ではなく、“Differences of Sex Development”であるというような主張をしているが、社会的にどうとらえればよいか。
 - 疾患と捉えるか否かが論点となろうが、明らかに病気として捉える必要があるケースもあるが、生殖能力を含め、どこからが疾患か明確に分けるのは難しい。
- ・代謝が性スペクトラムに影響するとの話だったが、遺伝的な性別により性ホルモンだけでなく代謝が変化して病気の頻度や治療反応性に影響するかどうかについてはどの程度解明されているのか。
 - 脳は最も性差は少ないが、筋肉は性別により異なる遺伝子が代謝に影響することが報告されている。ただし、この遺伝子の違いは性ホルモンによるといわれている。

- ・性差を捉える場合に性指向性と性自認の2つに分けられるが、動物に性自認はあるのか。
→ 少なくともマウスにはないと言われている。
- ・どちらの性にも属さない鳥類では、性指向性に違いがあるか。
→ わからない。典型的なオスとそうでないオスの間に個体の好みに違いはないのではないか。
- ・時間軸で捉えると、ヒトの中間的な性は増えているのか。
→ 明確な回答ではないが、精子数が減少していること、人工授精により中間的な人にも生殖機会が増えたことなどを勘案すれば増えたかもしれない。減っている可能性はあまりない。
- ・スポーツ界において、テストステロンだけを基準として男女種目にカテゴリー化されているが、今後、どのようなカテゴリーにするのがよいか、他に参考にすべき項目はあるか。
→ 何がいいかわからないが、パラリンピックのように基準を設定する方法も考えられる。ただ、世界最強を競うオリンピックでそれが可能かはわからない。

(3) 今後の活動について

渡辺委員長より資料3に基づき、今後の活動について提案があり、意見交換を行った。主な質問やコメントは下記の通りである。

- 性スペクトラムについて
 - ・男女で語れないという科学的根拠を示す位置づけとして重要。
- 性差を考慮した研究推進について
 - ・ジェンダード・イノベーションのスピリッツに対する共通理解、テクノロジーとイノベーションとジェンダーということでポジティブ・メッセージを出すことが大事。
- 性別データについて
 - ・世界のデータ公開については、主要国の中で日本だけが遅れているので、国としてきちんと取り組む必要があると提言に書き込むべきである。
 - ・データがばらばらなので、OECDのように、どこに何があるかがすぐわかるよう一元的に管理する必要がある。
 - ・男女別データでなく性別データが大事。
 - ・子供の性別データについては、学校教育での性別についての取り上げ方と整合して進めるなどの配慮が必要。
- 発信方法について
 - ・一般や若者、子どもに対してアプローチできる方法も検討したほうがよい。ブックレット、絵本、ツイッター、インスタグラム、漫画、電子ブックなどが考えられる。学術会議の「おもしろ情報館」はアクセス数が高いので活用を検討してもよいかもしれない。
 - ・具体的な対象、研究機関や大学、ファンディング機関、学校教育などを想定することが

できる。

以上の意見交換を踏まえ、分科会として下記について共有した。

- ・これまでの議論にもとづいて、政府に向けた提言を作成する（内容により大学にも）。シンポジウム等の方法による一般社会への発信は提言のあとで検討する。
- ・委員長、副委員長、幹事で提言の案を作成し、その後、分科会で議論し分担を決める。

（４）次回について

- ・提言の内容に関する検討
- ・11月頃で日程調整

（５）その他

- ・事務局から手当について状況の説明があった。

以上